

The Journal of Physical Medicine

運動療法と 物理療法

2010
Vol.21 No.4



日本運動器リハビリテーション学会

■ 原著

horizontal extension technique による手根管の形態変化 — MRI 画像を用いた計測 —

金子 翔拓^{1,2)} 坪田 貞子¹⁾ 青木 光広³⁾

札幌医科大学大学院保健医療学研究科¹⁾、医療法人社団篠路整形外科²⁾、札幌第一病院整形外科³⁾

要旨 横手根靭帯をストレッチする方法が手根管症候群に有用であるとされている。本研究では40代女性12名の右上肢を用い、ストレッチによる手根管の形態変化をMRIにて検討した。手根管の横断面積はストレッチ後に有意に増加した ($P < 0.05$)。横手根靭帯のストレッチは手根管症候群に有用である可能性が示唆された。

Abstract Stretching of the transverse carpal ligament is effective as a treatment for carpal tunnel syndrome (CTS). In the present study, we investigated the structural change of the carpal tunnel during horizontal extension technique on MRI. The cross-sectional area of the carpal tunnel increased after stretching significantly ($P < 0.05$). It is suggested that stretching of the transverse carpal ligament may be effective treatment for CTS.

Key words : 手根管 (carpal tunnel), 徒手療法 (manual therapy), 形態変化 (structural change)

緒言

手根管症候群 (carpal tunnel syndrome ; 以下 CTS) は正中神経支配領域の知覚障害と運動障害を病態とする正中神経の絞扼神経障害である^{2,6,7)}。

CTSの治療は病期によって異なり、一般的には保存療法が選択され、ステロイド注射やスプリントは短期的効果があるとされている¹³⁾。軽快しない場合は正中神経の除圧を目的に手術療法が選択され、手根管開放術が施行される。保存療法との治療結果の比較研究

では、手術療法が保存療法よりも優れているが⁷⁾、術後に再発する例や症状が残る症例もある¹³⁾。

CTSの保存治療に徒手療法がある。近年、Shacklockにより clinical neurodynamics という概念が提唱され、CTSに有効であると報告されている¹⁴⁾。Shacklockは手根管内のメカニカルインターフェースがCTSの機能異常の一つと捉え、CTSでは神経・腱に対して手根管が狭いことによるクロージング障害が認められると指摘し、メカニカルインターフェースを改善する horizontal exten-

Structural change of the carpal tunnel on MRI: influence of the horizontal extension technique

Shouta KANEKO, OTR, Sadako Tsubota, OTR and Mitsuhiro Aoki, MD, PhD

連絡先 : 〒002-8024 札幌市北区篠路4条5丁目3番9号 医療法人社団篠路整形外科 金子翔拓 電話 011-772-7255